

静岡社会健康医学大学院大学（仮称）検討委員会（第3回）会議録

|             |   |
|-------------|---|
| 日 時         | 【非公開】令和2年3月11日（水）午後1時30分から午後1時41分まで<br>【公開】令和2年3月11日（水）午後1時44分から午後3時00分まで   |
| 場 所         | ホテルアソシア静岡 15階「ベラビスタ」  |
| 出席者<br>職・氏名 | 出席委員：9名（敬称略）<br>本庶佑、佐古伊康、鬼頭宏、田中一成、徳永宏司、中山健夫、<br>松田文彦、宮地良樹、望月律子<br>欠席委員：3名（敬称略）<br>宮田裕章、山本清二、山本敏博<br>事務局<br>副知事 吉林章人<br>県参与 山口重則<br>健康福祉部長 池田和久<br>健康福祉部理事 石田貴<br>健康福祉部参事 窪田浩一朗 ほか健康福祉部職員  |
| 議 題         | 1 静岡社会健康医学大学院大学（仮称）の開学に向けた準備について<br>施設整備（予算、スケジュール）<br>学生確保策（奨学金制度、広報計画等）<br>法人の設立（定款案、評価委員会の設置）  |
| 配布資料        | 議事次第<br>資料1 静岡社会健康医学大学院大学（仮称）検討委員会 委員名簿<br>資料2 静岡社会健康医学大学院大学（仮称）開学スケジュール（案）<br>資料3 令和2年度社会健康医学推進関連事業の予算<br>資料4 静岡社会健康医学大学院大学（仮称）開学準備委員会<br>資料5 入試・学生確保スケジュール<br>資料6 学生の安定的な確保に向けた施策について<br>資料7 公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学の設立について<br>資料8 公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学 法人設立スケジュール |

1 審議事項（公開）

- (1) 静岡社会健康医学大学院大学（仮称）の開学に向けた準備について  
施設整備（予算、スケジュール）  
学生確保策（奨学金制度、広報計画等）  
法人の設立（定款案、評価委員会の設置）

2 審議内容

池田健康福祉部長から、資料1から8により、静岡社会健康医学大学院大学（仮称）の開学に向けた準備について説明した後、各委員による議論を行った。

(学生の確保策に関すること)

- ・自治医科大学の卒業生が、後期研修時に大学院大学に入学してもらえるよう、推薦を働きかけてはどうか。
- ・この大学院大学の大きな目標は、医師確保である。県内に医師を多く派遣

している大学と協定を締結すべきである。

- ・働きながら学ぶことは大変なこと。他大学では2年間の学費で3年間学ぶことができるところ（長期履修制度）もある。
- ・県外からの入学希望者の中には、県内での働く先が白紙の方もいるのではないか。入学までの間、県内就職をサポートする必要もあるほか、宿泊施設等の確保も課題となるのではないか。
- ・専攻医の希望者と面談していると、専攻後、自分の母校の大学に戻るかどうか迷っている人も多い。この大学院大学を選択してもらうためには、学生の出身大学と連携協定を締結できると、入学しやすくなるのではないか。
- ・専門医機構は、専門医のキャリアまでのカウントに大学院の所属をカウントに入れる場合は、臨床の内科系の大学院でなければいけないと示しているようだ。社会健康医学大学院大学に対する認知を広げる努力が必要。
- ・医師会からも継続的に学生を出せるよう、意欲のある者に勧めていく。

（奨学金制度に関すること）

- ・奨学金の財源を大学院大学が持つのであれば、他の大学院へ修学する学生に対して奨学金を支払うのは筋違いではないか。
- ・返済免除の条件について、大学院での研究成果を何らかの形で県内住民へ還元している、という基準は判定が難しい。
- ・奨学金については、大学でマネジメントするよりも、県でやってもらった方がよいのではないか。
- ・医学修学研修資金の中でやった方が、県民に対しても1つのストーリーで説明できるのではないか。
- ・医学修学研修資金は、地域枠と連動してきた。どのくらい増えるのか推移を見て、もう少し詰めていただきたい。

（開学準備委員会等に関すること）

- ・機密性の高い入学委員会とオープンな役割を持つ広報委員会では役割が大きく異なるため、分けた方がいいのではないか。
- ・デジタルが進歩していない時代は、様々な施設で不要になった書籍を集めて図書を充実させていたこともあった。

（社会健康医学の研究に関すること）

- ・今年度の社会健康医学の研究成果および来年度の研究計画については、研究推進検討部会に一任する。